

生産管理システムや映像解析アプリ制作の八雲ソフトウェア(松江市朝日町、22人)が、人工知能(AI)スピーカーで使用するスキルの提供を始めた。九九を学べる「九九ゼミ」を配信し、好評を得ている。松本隆義社長(44)は「AIスピーカーは大きな成長が見られる分野。島根発の技術で、多くの人の生活を豊かにしたい」と意気込んでいる。(坂本彩子)



開発した「九九ゼミ」を使う(左から)福間俊貴さん、矢島駿さん、松本隆義社長

## AIスピーカー用

# 九九を学ぶ「スキル」好評

## 松江の企業が開発

AIスピーカーは、音声認識して各種情報を検索したり、家電を操作したりできる。スマートフォンのアプリに当たる機能を「スキル」と呼ぶ。

八雲ソフトウェアは2013年設立。AIスピーカー市場に着目し、18年4月から矢島駿さん(33)を中心に6人でスキルの開発を始めた。

10月に初めて配信したスキルは九九の正誤を判定して暗記を手助けする「九九ゼミ」。声で操作するAIスピーカーは、使用者によって話し方が違うのを考慮する必要があり、開発過程で「言い換えの壁」に直面した。

例えばスキルを終了する場面では「もういい」「終わって」「やめて」など数十通りの言い換えがあり、

全ての言葉を網羅するのに何度も改良を重ねた。矢島さんは「性別や年齢を問わず、誰もが使いやすいスキルができた」とする。

また、視覚障害者情報提供施設ライトハウスライブラリー(松江市南田町)と連携し、障害者が使いやすいスキルの開発に着手。困りごとを調査し、災害時に山陰両県の各市町村が指定する避難所を伝えるスキルを考案した。担当者の福間俊貴さん(45)は「地元を根を張る企業だからこそ、山陰に特化した商品を作れた」と話す。

今後、公民館行事やごみ分別の仕方を知らせるスキル開発に着手する計画で、福間さんは「競争相手が少ない今こそ、多くの種類を提供してブランドを築きたい」と強調した。

## 「ブランド築きたい」 判定支援 「暗記正誤」

提供してブランドを築きたい」と強調した。